

< 参考事例 > 国語

第6学年 「熟語の成り立ち」 学習指導要領 言語事項 ウ (ア)(イ)(ウ)

「報告書」から、熟語を構成している漢字の関係を見る設問の正答率が低い傾向にあることが分かった。そこで、熟語の理解を深め、多くの熟語の成り立ちごとに分類し、辞書を活用して調べたり、分類したりする本単元を設定し指導の工夫を考えた。

1 単元名 「熟語の成り立ち」(小学校第6学年)

2 単元のねらい

関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
熟語の成り立ちについて進んで学習しようとする。	熟語の読み方、言葉の意味について辞書を活用して調べたり、分類したりして熟語の成り立ちについて理解を深める。

3 本単元における基礎的・基本的な内容と既習事項との関連

既習事項 小学校学習指導要領解説 国語編

言語事項 (3・4年)

イ 文字に関する事項

漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

エ 語句に関する事項

(ア)表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解する。

(イ)表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる方法を理解する。

言語事項 (5・6年)

ア 文字に関する事項

(ア)第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにする。

(イ)仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

ウ 語句に関する事項 (5・6年)

(ア)語句に関する類別の理解を深めること。

(イ)語句の構成、変化などについて理解を深め、また語句の由来などに関心をもつこと。

(ウ)表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。



本単元における基礎的・基本的な内容

熟語の構成の特徴を理解し、身近な熟語を構成ごとに分類する。(言)

「意味が対になる漢字」「似た意味の漢字」などの観点を基に一一つの熟語の構成を考える。(言)

熟語の読み方や意味などについて国語辞典や漢和辞典を活用して調べる。(言)

熟語の分類やクイズづくりの話し合いに進んで参加しようとする。(関)

4 資料

熟語の成り立ちコーナー 例

漢字二字の熟語

NO	意味	例
	意味が対になる	天地・売買
	似た意味	豊富・忠誠
	前が後を修飾	大木・幼虫
	下から上に読むと意味が通る	洗顔・登山

漢字三字の熟語

	「1字+2字」	新記録・未成年
	「2字+1字」	郵便局
	1字の語の集まり	市町村

漢字4字以上の熟語

	1字の語の集まり	春夏秋冬
	いくつかの語の集まり	宇宙飛行士

6年の4月から言語事項を学習するごとに学習内容を「言葉のハンドブック」としてファイリングする。敬語の使い方、熟語など国語はもとより、総合的な学習の時間など他教科等においてハンドブックを活用することで振り返りながら定着を図るようにしていく。

ヒントカード例

「言葉のハンドブック」の熟語の意味の言葉をヒントカードに書き入れる

ヒントカード
意味が対

ヒントカード
上 下
(上から下へ修飾)

